

おもいやり

— 中央東地区社協だより —

第59号

発行 中央東地区
社会福祉協議会
事務局 鎌ヶ谷市東初富
1-10-1
(東初富公民館内)
電話・FAX 442-5144
編集 広報啓発委員会

中央東地区社協サロン「翔友会」 目ざすは、ともに楽しい時間を「す」すこと

スタートは、外出されなくなった方、人と話す機会が少ない方々、気軽に立ち寄れるサロンを開きます。こんな文面を中央東地区内の自治会にお願いして、閲覧板を出させて頂きました。

初回の7月26日に翔裕園の「交流スペース」に14名(ボランティアのスタッフ8名含む)集り、話し合つて会の名前を翔裕園をお借りするこ

とで、翔の一字をいただき、皆がお友達になれるようにと「翔友会」と命名し、今後のサロンは毎月第三水曜日になりました。

翔友会は、午前10時〜13時。しかし、9時30分になると続々と参加者が集まってきました。時間になるとスタッフのお茶の準備、参加者と会場の設営を一緒におこない、参加者の方の提案から竹細工でお箸・一輪差しを作りました。

「「何年か夢中に取り組んだことが無かった」と言いながら楽しそ

うに手を動かしていました。作り終わった方からお茶やコーヒーを飲みながら雑談へと続き、次回の話をして終了。スタートから5回行っていますが竹細工では、参加者の方が竹の用意、カラオケでは歌詞カードの用意、ペーパードレスでは、新聞紙・包装紙などでアイデアを出しながら作成、モデルさんと記念写真で終了。回をかさねることに参加者も増えてまいりました。

11月は24名の方とカレライスで昼食をいただきながら和気合い合い過ごしました。12月は35人で正月飾りを作りました。

毎月行っていますので、お気軽にお越し下さい。
今後の開催予定

2月20日(水曜日)
3月13日(水曜日)



◆奇せられた善意

ありがとうございました

ニッポー株式会社様より
クリスマス会にお菓子の詰め合わせ
中村晃様より 手作り小箱

◆シツ交換ボランティアさん募集

場所 特別養護老人ホーム翔裕園
毎月 第4水曜日(8月・12月除く)
午前10時〜12時頃
持ち物 室内履き・エプロン
(中央東地区社協) ☎四四二・五一四四

◆車イスをご利用下さい。

無料で貸し出してあります。

【編集後記】

東日本大震災から2年になろうとしています。
あの時は被災地では全てのライフラインが止まりました。水道、ガス、電気などないことが、現代の生活に慣れた私たちにほんなに苦しいことか、想像するだけでも大変なことです。日常の備えが、非常時の生活に大きな助けになることを改めて感じています。

ふれあい交流演芸会(梨狩りの代替)

昨年までお世話になっていた初石園(石井宅)での梨狩り。初夏の天候不順等によりやむなく中止となり、高齢者や障がい者の方々に梨狩りに代わる催事を検討した結果「ふれあい交流演芸会」と決定、早速種目別の出演者・団体等へお願いし、快く承諾を頂き無事舞台が始まり、落語・詩吟・太鼓や舞踊とプロ級の芸ばかりにて大好評、感動の連続でした。食事の後梨狩り同様送迎し散会、第一回目の企画としては来場134名の方々に満足頂けたのではないかと思います。

20年間続いた梨狩りは終了になりました。

ふれあい交流クリスマス会

去る12月2日(日)今年一番の寒波到来、まだ寒さに慣れない高齢者や障がい者の来場を心配しましたが、パーティー開始の頃には会場が満杯となりひと安心。小・中学生と高齢者が笑い語らいながら、パーティー会場の飾り付けや飾り絵作成等、まさしく「手づくりクリスマス会」の雰囲気。今年も全国大会で最優秀賞の「第五中学校ギター部」による会場内を魅了する素晴らしい演奏あり、また昨年と同様「初富小音楽部」による高齢者や障がい者と一緒になってハンドベル等の演奏を楽しみました。その後、恒例のお楽しみ抽選会は190名の参加があり、特に子どもは大興奮、それぞれクリスマス景品を片手に散会となりました。

(ふれあい交流委員会)

中央東地区社協の活動範囲は

鎌ヶ谷東第1区連合自治会・東武鎌ヶ谷自治会・南初富連合自治会です。

中央東地区社協が県社協から
福祉教育推進指定を受けて3年

平成22年に県社会福祉協議会から「福祉教育推進団体」に指定され3年間の最終年度になりました。東葛飾地区では、鎌ヶ谷市の初富小学校、第五中学校と鎌ヶ谷高校の3校に加え、中学校区の中央東地区社協が地域団体として、パッケージで学校と連携して活動を研究推進するように指定されました。

地区社協も 福祉教育に協力

地区社協では、設立以来高齢者・障がい者の地域福祉だけでなく、児童の健全育成など児童福祉活動も心がけてきました。県社協から指定を受けて、地区社協も福祉教育の一端を担うべきであることを、多くの委員が認識させられました。指定を耳にした当初は、教育という言葉が重く、地区社協で何が出来るのか検討を開始しました。

しかし、同時に指定された3校の福祉教育担当の先生達との推進連絡会議を重ねたり、前年度指定の地区社協の実績を聞くうちに、

従来地区社協で続けてきた児童・生徒との諸活動が福祉教育に結びつくものであることを理解しました。福祉教育を意識して学校教育に協力、改善することで目的達成の糸口とすることにしました。児童生徒を地域に参加させて小学校児童に呼掛けて、独り暮らしの高齢者に年賀状や暑中見舞いを書いてもらう「はがき訪問」は十数年前から続けていますが、福祉教育推進指定を受けてから、二つ



児童が手すきはがき作りに挑戦

の小学校児童に加え、中学生・高校生にも呼びかけ、公民館集まり、より多数のはがき訪問を実現しています。学校外で、地域の大人と小中高の生徒が交流し、福祉の実践を学ぶ絶好の機会でした。「高齢者と障がい者と子供のふれあいクリスマス会」も同様永年続いていきます。参加者手作りの会場準備やケーキ作りに生徒児童の積極的な参加で盛り上がり、高齢者と交流で福祉を学ぶ場面が多く見かけるようになりました。

地域も学校に関わり増加

従来五本松小で学校と協力して実施してきた3年生授業での地域の高齢者と児童の交流会(昔遊び・給食懇談)を、児童数の多い初富小4年生授業でも実施しました。1年生と昔遊びで地域の大人とふれあう授業にも協力しています。五中の木犀祭では、小・中学生に高校生も加わり、体育館全面に、多数の地域の人が昔遊びを指導し、交流する様は圧巻でした。

小学生の子どもたちと

昔あそびでふれあい交流

恒例のお年寄り子どもたちとのふれあい交流会は、去る11月20日(火)五本松小学校の教室で行なわれました。

昔あそびに興じた児童は3年生90人余りとそこに参加したお年寄りは20人ほどでした。

日頃あまり子どもたちにふれあうことの少ないお年よりは戸惑いながらも迎えにきた子どもたちに柔和な笑顔を見せながら予め決められた、こま・お手玉・おはじき・けん玉・将棋・あやとり・折り紙等、各グループに分かれ楽しいひと時を過ごしました。

あそびの後は給食を共にし、その日の会話はいろいろありましたが「あなた方は、お父さんお母さんにとって宝物であると同時に子ども達の数少ない日本にとっては、国としても宝物なのだよ」と言ったらある女の子から、「それでは学校は宝の山だね」と言ったので、私は「そうだよね。だからみんな頑張ってほしい」と言ったら顔きながら見せた笑顔は輝いていました。(ボランティア育成委員会)



児童・生徒から
一枚の絵はがきに愛をこめて

ボランティア育成委員会は、年に2回地区内の初富小学校・五本松小学校・第五中学校の児童生徒の皆さんと一緒に、ひとりでお住まいの高齢者と病気で外出のままならない方々約200名に、夏には暑中見舞い、冬には年賀状のはがきをお届けしています。

とても色鮮やかですばらしい絵はがきができあがります。特に年賀状は、昨年に続き牛乳パックを溶かして手すきした手作りはがきで、夏休み小・中学校の有志の皆さんと一緒に作っています。受け取った方々はとても好評で、そのお礼状が届いた子どもたちも喜んでいました。

特にこの3年間は福祉教育パッケージ事業の一環と協働での行事としたので、鎌ヶ谷高校の生徒さんにも参加していただいております。

これからも高齢者等の方々に喜んでいただけるように続けていけたならいいなあと思っております。(ボランティア育成委員会)



県大会・市発表会で報告会

3年間の活動については、鎌ヶ谷の指定3校と共に、8月千葉市の福祉教育研究県大会で実践発表しました。

更に市教育委員会からも研究指定を受けていた小中学校と共に、9月の東葛飾地区教育関係者への鎌ヶ谷市研究発表会に、共同研究団体として実践報告をしました。

今年度終了後には、3年間の活動報告をまとめて県社協に提出する予定です。

(福祉教育推進部会)

